

ICTは大学教育を変えるか

水越敏行(関西大学特別顧問)
(大阪大学・名誉教授)

全学にFD部門を設けた効果(1)

- * 各学部から委員を選出。教授会と委員会の連絡が密に図れる。(2001年～)
- * 全学部に授業評価をFD委員会名で、年間に2回実施。(評定尺度と自由記述)。
専任も非常勤も本人の授業で実施。
自由記述は教員本人へ。評定尺度はFD。

各学部の授業の収録(2)

- * 各学部で推薦した教員の授業を収録。
(講義、演習、実験実習、模擬裁判など)
- * 教員と学生の意見も後半に収録。
- * 全学部へ送付。希望した他大学にも送付。
(後はFD部門で保管)。

全学の公開セミナー(年2回程度)

- * 他大学から講師を招いて講演会。
- * 教員と学部生が登壇してパネル討論。
- * ビデオに収録した教員から意見や提案。
- * 学生も外部からも自由に参加し質疑できる。

新規採用教員への説明会

- * 学長や担当部局から関西大学の歴史、職務などの説明。
- * 前期と後期の「学生による授業評価」の説明。
- * 授業のビデオを紹介、FD委員長が解説。





全学授業支援センターの構成

- 授業支援センターの新設(2006年～)
- 専門の事務職員(次長、課長、係長、専門職員等8～10名程度)。
- 学部学生120名程度。各自は週1日出勤で終日勤務。(1年契約)
- 大学院生が3～5名。各自は週2～3日出勤。
- 顧問が1名。隔週に出勤。

授業支援センターの機能

- 学部生は、プレゼン機械の設置、操作、出席の点検、資料の印刷や配布など、授業の支援活動を行う (Student Assistant)。
- 大学院生は、メールや直接面談で、SAから問題点や意見聞き取り、教員とも面談し、要望を聞き取り、授業参観して、コメントする。
- 毎月2回、顧問、事務職員、院生の合同会議を持ち、対策を協議し、決断する。

教員対象に電子機器の操作指導

- パワーポイントの作成や投影の実技指導。
- 電子メールの送受信、記録集計などの指導。
- ビデオの撮影や編集の実技指導。
- これらは教員の希望者が多い。学会での発表や資料の保存、学生との交信などに。
- 指導は大学院生が分担して担当する。教育工学センターの専門技官からの指導と協力を得て。



FDと授業支援センターの支えあい

- FDは関西大学の全学の公的な組織。
各学部から1名の委員。月2回は定期開催。
- * 全学授業支援センターは、常設で毎日朝から夕方まで。個々の教員の要望に応じてSAが支援。TAが助言し、教員のICT教育担当。
- * 両者の懇談会を年間に2～3回は持ちたい。